

令和七年 熱田神宮献詠歌 兼題 宮

宮仕へ五十年過ぎて今想ふ我足跡はいかに残ると
宮 司 千秋 季頼

宮の宿海路渡れば桑名宿陸路で向かふ伊勢の大宮
名誉宮司 小串 和夫

風そよぐ熱田の宮の心地よさ杜のおかげとひと汗拭う
権 宮司 多賀 顕

夏の日に宮居の木陰涼しかり子等の笑顔に心安らぐ
権 宮司 芹田 治

木曽山の樹齡三百檜香立つ遷宮祈る杣人の斧
権 宮司 高橋 守

朝な夕な大宮護りて幾十年有り難きかな宮の御心
権 宮司 小久保雅広

宮路とは背丈ほどにも満たぬ径ビルの峽にも神代通へり
権 宮司 宮川 一穂

朱の鳥居宮の字仰ぎ俄馬錦絵を駆く熱田の鼓動ぞ
権 宮司 安江 英男

宮の杜に神楽舞はれ参拝者心静かに祈りを捧ぐ
権 宮司 北野 貴之

つれ合いとふたり宮川手水して外宮参りし安寧祈らむ
権 宮司 安部 修司

湧き水の人のいのちよ大楠のコーラス聞こえる熱田神宮
選 者 加藤 治郎

宮の辺に春の陽の射し長閑なり玉砂利を踏む音の響かう
選 者 永岡 淑恵

通学路のごとく列なし石段を上がりてゆけば大宮の見ゆ
選 者 田中 仁巳

宮簀媛いつも笑まいて待ち給う草薙館をおとなうたびに
選 者 小塩 卓哉

宮川の市に買ひたる朴葉みそ厨に飛驒の香りを放つ
特別委員 岡田 米子

ひとつ眼のつはものごとと光もれ灯籠ならぶ夜の宮居あり
特別委員 大塚 寅彦

西海の荒波とよむ崖のうへ岩をうがちて朱の宮をはす
特別委員 三留 享

宮づとへ香をたきしめて一碗をひと日を澄ませ秋に入らまし
披講所役 綾小路有紀

み上ぐれば石垣堅し城の宮目を転ずれば長良煌めく
披講所役 藤井 和文

堀川の七里の渡し船着場まいる旅人熱田の宮へ
披講所役 加藤 陽生

みどり濃き御手植へ楠の亭亭と宮のまもり樹国のまもり樹
披講所役 野村 辰美

年魚市潟鎮まり給ふ蓬萊の宮こそ国の礎の杜
披講所役 手塚 晴彦

渡会の山田が原の大宮に響く碗鳴り由々しお木曳き
披講所役 大野 暖史

預選

一般の部

卒寿そっじゆなる夫つまの打ちうたる柏手かしわでの音色ねいろは宮居みやいの森深もりふかく消ゆき

愛知県 坂野 加代
静岡県 本多孝太郎

この宮みやに如何いかなる歴史れきしのあるならん照てる日曇ひくもる日ひそして雨あめの日ひ

愛知県 平田わか子

まんまるの黒くろき小ちいさな目めの守宮やもりさしだすわれのてのひらに来こよ

大阪府 滝本 俊介

悠久ゆうきゆうの社やしろを守る宮大工魅みせる技わざにも神々宿かみがみやど

愛知県 鈴木 詔子

万緑ばんりよくの宮みやの玉砂利たまじやりふみ行ゆきて誓ちかいし孫まごの白無垢しろむくまぶし

愛知県 片瀬千香子

宮川みやがわに沿そひて賑にぎはふ朝市あさいちに飛とび交かふ姉あねさのお国訛くになまり聞きく

愛知県 加藤 晶子

宮みやの中なか空蟬かうつせみふたつ並ならびけりいずれ消きえゆく夏なつのあしあと

愛知県 谷川 清

うちひさす宮みやの渡わたしを訪たずね来て名残なごりの櫓やぐらに船路ふなじを偲しのぶ

長野県 川島由紀子

子の宿やどる母ははの腹はらにも宮みやありて祈いのりに祈いのり生おひ出いづるなり

小中学生の部

光ひかる花はな夜空よぞらに上あがり舞まつていく君きみと見み上げる神宮じんぐうの空そら

愛知県 佐藤 瑠唯
愛知県 松尾 伊織

神宮じんぐうで匂においを嗅かぐとぎんなんがつんと匂におつておとずれる秋あき

佳作

佳作

一般の部

異次元いじげんのように静しずかな神宮じんぐうの森もりはざわめく初夏しよかのひかりに

愛知県 吉田 恵子
愛知県 高岸 直子

心こころ踊おどりし熱田あつたの宮みやの尚武祭しょうぶさい篝火かがりび高く振ふり仰あおぐ女男めお

愛知県 遠山 敦子

宮大工たりし父の庖丁に大根は菊の花となりゆく

神奈川県 上村 信子

とほき日に遊びなまときそひけり宮地の奥の椎の実拾ひ

東京都 高田 光恵

鹿しかの如ごと子供こどもらお宮みやに駆かけてゆく祭まつりの鼓動こどうはやフォルティシモ

千葉県 高崎 幸子

神宮に土俵入りを奉納する横綱のまはし清々しき白

愛知県 清水あさ子

梶棒かじぼうは五トンの山車だしを八人はちにんで玉汗吹たまあせふいて宮入りくるる

愛知県 高羽 基光
君がいた宮のベンチに座る午後名前を呼べば風が応える

愛知県 伊藤 弘子
初夏の少し曇れる宮の杜胸張りて鳴く白き鶏

神奈川県 二界友理子
宮大工鉋を挽くや忽ちに古代の松芳しくたつ

愛知県 齋藤とし子
女みなその体内に宮を持つ命育む尊き臓器を

愛知県 白井 貞光
あさよひに抜ひ清めて饌供ふ宮のまつりはとこしへの日々

愛知県 河面 紀子
草薙剣祀りしこの宮の不滅の光令和照らせり

愛知県 鈴木 秋津
夏の夜の宮に響けし夢花火桶のすきまに覗く散り花

愛知県 植田 綾子
喧騒を忘れし宮の息づかい神話の吐息肌で知る夏

愛知県 濱本 敦子
宮参り幼き吾の手を引くは若き父なりアルバムの中

愛知県 白井 洋子
神宮の「御利益なり」と孫の言ふ医科大学の正門の前

愛知県 宮川 知子
「わっしょい」と鎮守の宮へ神輿ひく青き半被の子らの目きりり

岐阜県 服部 智
軽やかに竹箒のおと呼応して爺様婆様のお宮さん掃除

愛知県 河村 仁誠
楽し気な母子の語らい聴く守宮玻璃の向こうで微笑み返す

愛知県 大矢萌々香
小中学生の部

愛知県 松尾 実佳
宵の宮君は誘ってくれたけど想いの人は心の中に

愛知県 鬼頭 弘喜
雨あがり宮の木々からしづく落ち光がさして道が輝く

愛知県 田井 松香
神宮の木の隙間から見えている花火に混ざる豊穣の星

愛知県 柴田小花奈
宮桜輝いて舞う花びらを追いかけていた幼い私

愛知県 野村ひかる
宮の杜神鶏さまに見守られ砂利を踏みしめザッザッと進む

愛知県
宮参り受験に向けて参拝だ目指せ合格幾度も唱える

献詠集のご案内

神前に奉奠されたすべての詠進歌と、
当日歌会の入選歌を収録した献詠集を刊行いたします。

ご希望の方は小為替若しくは切手で六〇〇円（送料込）同封の上、
〒456-8585 名古屋市中熱田区神宮一丁目一番一号

熱田神宮宮庁内

熱田 神宮 献詠係

へお送りください（十一月頃刊行予定）。

献詠集希望者には来年より献詠祭の要綱を送らせていただきます。

選外佳作

一般の部

宮渡し夕浪千鳥尋ねゆく蓬来の山忍に思ほゆ
愛知県 櫻井 寛彰

白袴白衣をつけて研修日神宮の杜を颯爽とゆく
愛知県 西村 愛美

宮ちゃんも宮本君もじじばばと呼ばれライ
ンのスタンプは鳥。愛知県 岩瀬 美子

農民の生活支え今日も又日照りを歩く宮沢
賢治 愛知県 藤下 義

奥の宮夏兆す風吹きぬける散歩行き交ふ朝
の参道 茨城県 児矢野雅恵

宮の杜清がし空気にいだかれて吾が老境は
背すじ立つなり 愛知県 川松 朝子

中宮の沈む心をいかにせむ清少納言の枕草
子 東京都 竹田英里子

産土の宮に流るる涌き水に木の葉浮かびて
蟹の遊べる 三重県 今井 順子

母の背で唄歌ひつつ幼子が日の照る宮の石
段を来る 福島県 高荒 啓中

ふるさとの柱時計は四時のままいつしか番
いの守宮が家主 愛知県 川合 芳文

パレスとは宮殿だよね内見は短時間だよね
2LDK 兵庫県 斎木さおり

大切な荷物のなかの写真箱お宮参りの家族
の写真 東京都 栗原 幸子

婚あげし熱田の宮に金婚の記念日夫と玉砂
利を踏む 愛知県 浅野由美子

親譲り宮田ハモニカ手にするも行く道霞み
野辺に戯る 愛知県 河村 正幸

あかつきの静寂にひびく鶏のこえ神剣ねむ
る杜は目覚むる 愛知県 松崎 光江

天つ風宮居に生うる楠の木を怒濤の如く打
ちて翔ゆく 愛知県 河野 裕美

白鳥は大宮高く舞い続け平和を告げる姿麗
し 愛知県 大澤 勝美

宮大工の父を矜持に立つ教壇五月の風に青
春光る 愛知県 堀越 茂子

風薫る宮の渡しに佇めば今は昔の賑わい思
ほゆ 愛知県 橋本 孝子

顔を上げ宮の森行く屋下がりみどりかぐわ
し深める夏に 愛知県 牛田 照代

混迷の時代に生きて早や八十路宮への願い
世界平和こそ 愛知県 松居 富子

つきたてのお餅のような赤子抱き肅肅歩む
神宮の参道 愛知県 加藤 和美

土俵際つま先ひとつに反りかへる弱きをひ
いきに沸く宮相撲 東京都 岩崎 公一

喧騒の街中はなれ宮の杜楠の木影に野良猫
と親しむ 愛知県 伊藤 繁子

ドラゴンズの優勝願う選手らの柏手ひびけ
熱田の宮に 愛知県 近藤 洋子

一人居の老深まりき終活の思案を胸に宮前
に立つ 愛知県 吉村 昌子

長寿祭「笑ろふて生きよ」と宮司より婚を誓
ひて六十五年 愛知県 松井香保里

生業は理容師ゆゑに大勢の宮参りの子の散
髪したり 新潟県 今成 愛子

手を引かれ宮くぐりたる日のぬくみ忘れぬ
ままに大人になりぬ愛知県 山崎 博之

木のくせを読むは語らぬ宮の枝手の感覚が
知る温もりを 愛知県 榎原 智裕

通学で通り抜けした神宮と献歌をつなぐ細
き糸あり 愛知県 安田 真弓

栃の実がポトリと落ちたふる里の宮居忘れ
じ音ぞ思ほゆ 岐阜県 中村 敏子

母の手をゆるり引きゆく宮の坂あと一息の
声を明るく 秋田県 三浦 善隆

小中学生の部

宮参り受験に向けて参拝だ目指せ合格幾度
も唱える 愛知県 野村ひかる

神宮に優勝ねがつておいのりし気持ち整え
いざ遠征へ 愛知県 河合 駿

熱帯びる人間たちをさそうのは涼しいかお
の熱田神宮 愛知県 渡邊 咲来

読み返した日々 愛知県 片山 凜

海の庭気ままに浮かぶあの亀は竜宮城の道
を知るのか 愛知県 小玉 出海

宮参り小さな命は腕の中元気に育てそう願
う母 愛知県 村田 絢咲

神宮の杜をくぐれば風ひとつ何も語らずそ
っと寄り添う 愛知県 梅原 明希

元旦に幸せ祈る宮参り「いい一年になります
ように」 愛知県 中嶋 健志

夏の日の熱田の宮の澄んでいるおおくすの
木ときらめいた池 愛知県 安藤 純鈴

神宮に風が吹いてはざわざわと空に伸びて
く森のカーテン 愛知県 佐藤 璃桜

なつかしく今思い出す初めての中学校はま
るで迷宮 愛知県 藪下 璃子

令和七年熱田神宮献詠歌集

(預選・佳作・選外佳作)

発行 熱田神宮宮庁

発行日 令和七年九月二十八日

住所 名古屋市中熱田区神宮一丁目一番一号